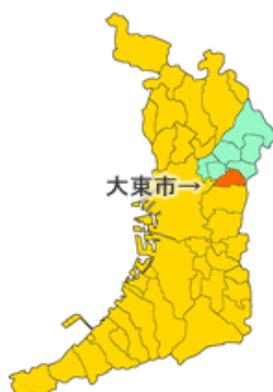


1 構成市の概況

構成市の概況

(1)大東市の概要



東西7.5キロメートル、南北4.1キロメートルで、総面積は18.27平方キロメートル。

大阪府の東部、河内地方のほぼ中央に位置する人口およそ12万人の大東市。

東は豊かな自然が息づく「金剛生駒紀泉国定公園」を境に奈良県に、西は大阪市に接しています。

また、北は門真市、寝屋川市、四條畷市に南は東大阪市に、それぞれ接しています。

大阪市内及び京都府南部方面へは、JR学研都市線で結ばれ、道路も市の中央を南北に外環状線(国道170号)、東西を府道大阪生駒線が走り、交通の便にもたいへん恵まれたところです。

市章



大東市は住道町、四条町、南郷村の2町1村が合併して、昭和31年4月に誕生しました。

大阪市の東部に隣接する衛星都市として飛躍的發展が期待されるという明るい展望のもと、市制のスタートを切りました。

過去の栄光と将来への明確な展望を「光は東方より」のことわざに託して「大東市」と命名されました。市章は、「大とう」の文字をデザイン化したもので、公募によって定められました。



市の木 さんごじゅ

スイカズラ科の常緑高木で、3～10メートルの高さになります。

秋には赤い実をつけるたいへん美しい木で、実が赤く熟し、珊瑚のように見えることからさんごじゅと名付けられています。

この木は水分を多く含んでいるため、生け垣などに防火樹としてよく植えられ、名実ともにまちを美しく飾り、また守る木として愛されています。



市の花 菊

菊は「古今和歌集」や「源氏物語」などに登場し、以後春の梅、桜と並んで秋の花の代表として広く親しまれています。

中国から薬草として日本に渡来したのが、後に観賞用となったもので、市内各地域でも気品と芳香を誇る菊作りが行われています。

(2) 四條畷市の概要



四條畷市は、大阪府の東北部に位置し、大阪都心まで15kmほどの大都市近郊部にあります。

市域は、東西7.3 km、南北5.4 km、面積は18.69 km² で、その約3分の2は北生駒山地となっており、寝屋川市、大東市、交野市、奈良県生駒市に接しています。

平坦地である西部市街地は、中央部を国道163号が東西に、西端部を大阪外環状線(国道170号)が南北に走っています。さらに、中央部をJR学研都市線(片町線)が南北に走り、その沿線を中心に市街地が広がっており、ところどころに農地や社寺、史跡の緑を残しています。また、市街地の東側には、大阪平野を眺める飯盛山など北生駒の山々が連なり、そのほとんどが金剛生駒紀泉国定公園に指定され、緑豊かな姿をみせています。特に、北生駒山地の中核的エリアである緑の文化園周辺地域は、自然を活かした文化、研修、スポーツ・レクリエーションの場として、多くの人々に利用されており、広域的なシンボルゾーンとしての役割を担っています。

東部の田原地域には、自然環境に恵まれた田園風景の残る既存集落があり、また、水・緑・石を活かしたパークヒルズ田原の新市街地の整備が進み、緑豊かな魅力ある副核的地域として形成されつつあります。

市章



四條畷の「し」と畷の「な」の2文字を平和の象徴である鳩に凶案化し、未来に向かって雄飛する四條畷市の姿を表したものです。



市の木 くすのき

楠は、わが国に産する樹木中最大のもの。常緑広葉で広円な樹冠を形成します。市内には、楠 正行墓地にうっそうと生い茂る楠の巨木があり、広く市民に親しまれています。



市の花 さつき

さつきは、ツツジ科の常緑低木。観賞用として品種が多く、栽培増殖が簡単。花に風格があり、また、赤・白・しぼり桃など色彩感あふれており、多くの市民に愛好されています。